

超音波で子宮筋腫治療

山梨大病院導入 県内初、手術せず短期で



患者の下から超音波を当て、患部を壊死させる集束超音波治療器
― 中央・山梨大付属病院

同病院や治療器の製造メーカーによると、治療器は磁気共鳴画像装置(MRI)内で使用。MRIの寝台部分に設置し、患者の体の下から超音波を当てることで腫瘍などを壊死させる。導入されているのは国内で11台、世界で約80台という。

山梨大付属病院は7月から、超音波を体内で集中させることで生まれた熱を利用して、筋腫などを壊死させる「集束超音波治療器」を導入する。超音波を当てるだけで治療ができるため、手術痕が残らないことに加え、短期間での治療が可能になる。同治療器を導入する医療機関は県内では初めて。同病院では子宮筋腫の治療に活用するが、乳がんや肝がん治療への応用も検討している。

台という。

同病院では、治療器を子宮筋腫の治療に活用。MRI画像を確認しながら、治療箇所を3〜5時間かけて超音波を当て、体内を65〜85度に加熱する。壊死した筋腫は数カ月かけて体内に吸収され、1〜

子宮筋腫 子宮内の筋肉細胞が固まって腫瘍になる病気。筋腫自体は良性だが、筋腫によって子宮が変形することで、月経血が多くなり、貧血や切迫早産の可能性が高まるとされる。投薬治療は副作用があるために長期間行えず、手術をする場合は1週間以上の入院期間が必要になるなど、治療法によってデメリットが指摘されている。

6カ月で症状の改善が見込まれるという。

超音波を腫瘍に当てるだけで治療が終わるため、手術痕が残らないことに加え、入院期間も1泊2日程度で済む。同病院産婦人科の平田修司教授は「治療の翌日から仕事ができるようになるなど働く女性にとって、かなり良い選択肢になり得る」と話している。同病院は、同治療器を使用する患者について、筋腫の大

きさや位置を考慮した上で、出産を望まない女性に限定する方針。健康保険の対象外となるが、同病院では、導入からしばらくは研究目的として、患者からの負担は求めないという。

同病院放射線科の市川智章准教授は「腫瘍をピンポイントで壊死させることができるので、今後は乳がんや肝がんへの応用も期待できる」と話している。